

パラアート展の魅力を  
 知ってもらうために

6月から実施した「ビッグハートプロジェクト」での認知度アップ作戦に加え、パラアート展会場がある文化会館たづくり館内では作品の魅力に触れる工夫が随所に。中でも必見はエレベーターホールに設置された国内外で活躍する「オール・ブリュット」アーティスト与那覇俊氏のウォールアート。独特の世界観と表現力に圧倒されます。



「ハートつなぎday」会場にはパラアート展作品の一部も展示。イベントに参加して初めてパラアートに触れたという方も。



エレベーターホールに設置したアート作品「与那覇俊氏《有限内の無限 0=3》」。12月末まで展示しています。



文化会館たづくりエントランスに展示された「ビッグハートアート」。自分の作ったハートがどこにあるか探す人も。

**共生社会の充実を目指す市の理念を体現**

「もっと知ってほしいパラアートの魅力をより多くの人に届けたい」と市民参加型の応援企画「ビッグハートプロジェクト」を企画した調布市文化生涯学習課の菊池香穂里さん。「入場者数はもちろん、来場者の層も広がったと実感しています」とのこと。同課長の渡辺賢治さんは、「市が掲げる『パラハートちょうふ』の理念のもと、福祉作業所等連絡会や特例子会社のメンバーのアート作品を積極的に活用していきたいと考えています。作品づくりの環境支援や展示機会の拡充に向けた一環として公共施設の装飾など、作品の魅力を広く発信する取り組みを継続していきたい」と話します。パラアートの可能性はこれからもどんどん広がっていきそうです。



逸品誕生  
 ストーリー  
 vol.6

作り手の個性が光る普段づかいのうつわ  
**陶芸作品**



メンバーそれぞれの「好き」や「得意」を造形に生かす

暖かな色合いとユニークな模様が魅力の、同じものは一つとしない個性的なうつわたち。知的障害のある方の通所施設「そよかぜ」では、陶芸家としても30年以上の経歴を持つスタッフ、田崎麻里子さんの指導のもと作品作りに取り組んでいます。「数種類の粘土を混ぜる土作りの作業からメンバーと一緒にを行っています。特に各自の得意な動作を活かせるのが模様づけの作業。粘土の色見本から好きな色を選び、小さなお団子状にして張り付けたり、ひも状に伸ばして縄目模様をつけたりと、その方ならではの動きと創造性を発揮した作品ができあがります。また、作品作りの過程での様々な動作、指先や手、腕全体を使ったり、立つ、座るなどの動きは体のストレッチとなり、健康にもいい効果が。コロナ禍での中断を経て今年活動を再開し、先日はメンバーのご家族向けに販売会も行いました。ご自身で作った作品を日常的に使ったり、ご家族で楽しむこと



手でこねたり道具を使ったり、それぞれのやり方で取り組みます。

で生活の質の向上につながればと思います」(田崎さん)現在は、購入できるのはれんこんの箸置きだけですが「いい作品がたくさん生まれているので、この秋以降、地域のイベントなどで販売していきたいと考えています」と施設長 大山さん。

そよかぜ

わくわく編集部が見つけた福祉作業所メイドの逸品をシリーズで紹介。今回はメンバーの個性を生かした陶芸作品が素敵な「そよかぜ」にいました。



**基本情報**  
**そよかぜ**  
 調布市西町290-4  
 042-481-7663



色や形はメンバーが決め、最後の仕上げを田崎さんが行います。



たくさん作った粘土玉を張り付けて。根気のいる作業。



ろくろが得意なメンバーも。土の感触を楽しみながら。

逸品に出会える場所

「そよかぜ」の陶器小物は「ベーカリー&カフェほっとれ〜る」(月〜土 10時30分〜 18時・日祝は17時まで)などで販売しています。